

令和6年度 第2回岡崎市図書館協議会議事録

1 日時

令和7年2月14日(金) 午後1時30分開始、午後3時00分終了

2 場所

岡崎市図書館交流プラザ 会議室 103

3 出席者

(1) 出席委員 (10名)

高井委員、鹿嶋浩委員、江良友子委員、光田委員、湊委員、浦部幹資委員、柿田委員、杉原委員

(2) 欠席委員 (2名)

清松治子委員、平岩ふみよ委員

(3) 説明のため出席した事務局職員

加藤社会文化部長、谷端中央図書館長、大村副館長、本多総務係長、上川畑情報サービス係長、町谷主査

4 傍聴者

なし

5 次第

(1) 社会文化部長あいさつ

加藤社会文化部長あいさつ

(2) 会長あいさつ

高井会長あいさつ

(3) 議事

(1) 令和6年度事業 経過報告

(2) 報告事項

(4) その他

6 議事要旨

(1) 令和6年度事業 経過報告 事務局から説明

(会長)

令和6年度事業経過報告について、質問等あればご発言いただきたい。

(委員)

その他図書館事業のなかに職員派遣等が5件あるがどういう内容だったか。

(事務局)

特別支援学校は、読み聞かせを行うため派遣している。

それ以外の根石小、六ツ美中学校、元能見保育園は各学校や園の希望を聞き、可能かどうか判断して、職員派遣を行った。

具体的には根石小学校では、本のポップ作り、六ツ美中学校では、ブックトーク。元能見保育園では読み聞かせに合わせて図書館の紹介を行った。

学校図書館部会自主研修については、毎年1回学校図書館部会から依頼があり、そこに出向いて説明をしている。

(委員)

イベント事業にある「図書館マナーアップキャンペーン」はちょうどいま開催しており、大切なことだと思うが、展示内容がどうしてもワンパターンになってしまいがちで、利用者への意識づけも薄くなってしまう。本の修理講座などを開催して、本の修理にはこれだけの手間が発生しているといったことも周知してはどうだろうか。

(事務局)

意見として承る。

(2) 第四次岡崎市子ども読書活動推進計画策定に向けたアンケート結果について 事務局から説明

(会長)

第四次岡崎市子ども読書活動推進計画策定に向けたアンケート結果について、質問等あればご発言いただきたい。

(委員)

アンケート結果で、小学生において、本を読むことが「とても好き」という回答が平成30年度調査と比較すると、大きく減少している。

保護者へのアンケート結果でも、「もう少し読書をすべきだと思う」という回答が増加している。特に小学生あたりでしっかりと本を読むようになると将来にわたって読書してくれるように思う。

(事務局)

今後の会議に向けて、今まで行ってきた施策の分析を行い、今後の取り組みについても相談しながら進めていきたい。ただ、全国的な調査でも本を読むよりもインターネットで活字を読むという

割合が増えている。活字は読むがその媒体が本ではなくデジタルのほうに移行しているのではないかという国の分析もある。

(委員)

アンケート結果はかなり衝撃的である。アンケートの媒体が紙からタブレットに変わったという影響もあるかもしれない。また、アンケートの対象についてであるが、中学生は市内の全ての市立中学校を対象としており、小学校についてはすべての市立小学校が対象となっているわけではない。高校については市内の普通科高校を対象としているようであるが、アンケート対象となっていない普通科高校があったり、実業系の高校が対象となっていないのはなぜか。

(事務局)

第3次計画策定時のアンケート調査と対象を揃えなかったというのが主な理由である。調査対象を幅広くとることは良いというのはわかるが、今回は第3次計画を検証したい、というのもありこのように実施した。

(委員)

小学校はどういった地域なのか具体的にわからないが、高校については、回答結果にかなり大きな影響を与える可能性があると思う。実業系の高校と普通科高校との差が出てくる可能性がある。前回のアンケート対象と揃えたい、というのもわかるが、アンケート対象校の偏りが気になってしまう。今後アンケート調査を行う場合はそのあたりも考慮した方が良いと思う。

(事務局)

統計の都合もあり、今回は前回は踏襲した。指摘内容についてはもともとである。今回のアンケートでは、初めて媒体を紙からタブレットに変更したが、手法も確立できたと思うので、今後アンケート調査を行う場合は幅広く意見を集約できるよう努めていく。

(会長)

本離れというのは高校の教育現場でも感じるころはある。文科省でも教科書のデジタル化を進めており、様々な面で紙の本ではなくなる傾向は避けられない。スマートフォン等を使う時間も高校生だともう7割近くの生徒が1日あたり2、3時間以上使っているという現実がある。それが良いのか悪いのか、高校の教育現場でも危惧している。

(3) 生涯学習推進計画の中間見直し（令和8年度）に向けて 事務局から説明

(会長)

生涯学習推進計画の中間見直し（令和8年度）について、質問等あればご発言いただきたい。

(委員)

議題3—3 問18の設問の「コストも含めた考え」という表現であるが、コストを考えるのは図書館側で行うべきことではないのか。利用者自身がコストを考えないといけないというのは聞き方として適切だろうか。

(事務局)

この設問の意図するところは、利用者が希望する図書館サービスの優先順位の把握である。質問の表現については誤解を与えないような内容となるよう一度検討する。

(委員)

質問の追加や削除はまだ可能か。

(事務局)

最終決定は図書館協議会ではなく、生涯学習委員会であるため、まずは気になる点は意見をいただきたい。

(委員)

図書館が無料で利用できることや、岡崎市では自動車文庫が廃止されていることの認知度など、基礎的な質問を入れてはどうだろうか。また、アンケート結果を受けてどうするのか。回答に占める割合が高かったものについては早く実施するなど、そういった方針などはあるか。

(事務局)

生涯学習推進計画に図書館事業は掲載しているが、昨年度の協議会でも数値指標だけで説明されても何を目標しているかわかりにくいので、そのあたりを考慮し今後の計画は考えて欲しいという意見もある。ニーズが高いものから優先的にやっていくという考えかたもあるが、図書館の使命としてやらなければならないところは、ニーズが低い原因を研究しながら、取り組んでいきたいと考えている。

(会長)

質問の追加や結果の扱いについては今後検討していくという形でお願いしたい。

(委員)

設問18については聞き方を抜本的に見直してほしい。希望する図書館サービスの優先順位を回答してもらうなどしたほうが良いだろう。問18内の選択肢5「AIによる個々に合わせた読書案内」というのはサービス自体に問題はないのか。

また、設問17に過去10年間の図書館利用の有無を聞いているが、期間が長すぎないか。

(事務局)

問18の聞き方については再検討する。図書館におけるAIの活用については多くのかたの関心があるかと思う。「AIによる個々に合わせた読書案内」を具体例として選択肢にしたが、これについても再検討したい。

問17の対象期間であるが、10年間図書館の利用がないと利用者情報を削除しており、その期間と合わせたためである。対象期間についても再検討したい。

4 報告事項

事務局から説明

(会長)

報告事項 令和7年4月からのレファレンスサービスについて 質問等あればご発言いただきたい。

(委員)

レファレンスサービスを図書館の中でどのように位置付けていくのか、全体的な見直しが必要だ

ろうと思う。表を見ると8月は135件と比較的多くなっているが、19時以降レファレンスカウンターに人を配置しない、というお知らせを出したことで、レファレンスサービスの存在自体が知られたことも要因だと思う。

また、クイックレファレンスが統計に含まれていないことも大きいと思う。今の日本の公共図書館では、利用者が日常的に接するところでのレファレンスが重要だと思うので、地域図書室を含めた岡崎市立図書館でレファレンスを、情報サービスをどのように提供していくかということを考えて欲しい。
(事務局)

クイックレファレンスの積み重ねが大事であるという指摘を前回の協議会でも頂いており、我々も大事にしてきたつもりである。先ほどの指摘のなかで、19時以降レファレンスカウンターに人を配置しないという掲示をしたことで急に利用が増えたのは、そもそもレファレンスサービスが利用者に知られてなかったのではないかとあつたが、そういったところも踏まえて職員で共有し、フィードバックできる仕組みを考えていきたい。

(委員)

レファレンス、という少し離れるかもしれないが、先ほど図書館で自分の生年月日に発行された新聞を複写しようとしたが、サイズが大きくて諦めてしまった。誕生日など何かの記念日と重なった日の新聞記事を複写したいという人は他にもいると思うが、何か方法はないだろうか。

(事務局)

新聞本誌となると何回かに分けて複写することになるが、縮刷版も蔵書にあるためそれを複写するという手段もある。ただし記事の内容は地方版ではなく全国版になる。

(委員)

いわゆる「レファレンスカウンター」はどういった文言で看板などに表示しているか。「調べもの案内」などと表記している図書館もあると思う。

(事務局)

「レファレンスカウンター」と表示している。

(委員)

「レファレンス」といってもピンとこない利用者もとても多い。「レファレンスカウンター」の表示については、クエスチョンマークのみとして、それを大きく表示するだけで何でもここに相談しても大丈夫だよ、という意思表示になるという考えかたもある。私は「調べもの案内」という表示があると分かりが良いかと思う。

(事務局)

意見として承る。

(会長)

報告事項 シビックセンター改修工事に伴う南部市民センター図書室の休室について 質問等あればご発言いただきたい。

(委員)

南部市民センター図書室をよく利用しており、楽しみにしている。予約資料の受取や返却機能を残してもらえるのは助かるので、ぜひ残してほしい。

(会長)

本年度の図書館協議会はこれで最後となるので、議事にかかわらず1年を通して意見があれば発言をお願いします。

(委員)

実際に図書館を利用してみて思った考えを伝えさせていただく。

コストの話をするとはもできなくなるが、貸出証を忘れることもあるので、アプリなどで本人登録をさせて、スマートフォンで貸出できるとか、貸出履歴なども残り何を借りたか分かるようにすると、いつ借りたかわかるし返却期限などもわかりやすいと思う。デジタル化をどんどん進めていただきたい。また、貸出履歴については個人情報保護との兼ね合いがあるが、ビッグデータとして活用できると思うので、また考えてもらえたらと思う。

(事務局)

貸出証を忘れた場合はカウンターで申し出てもらえれば対応できる仕組みがある。また、借りている資料の一覧や返却期限は図書館ホームページの機能でも見ることもできる。貸出履歴は外部に提供しないという図書館としての大原則もあり、現在の流れだともう少し先になるかと思う。

(事務局)

しかしながら、利用頻度などに応じて利用者ごとに図書館をプロモーションしていくことが可能というのはデジタルならではのと思う。図書館業務のデジタル化というものは総じて推進し検討していく。

(委員)

りぶらという名前の成り立ちからして、多くの市民に利用されていて、本当にとってもすてきな施設だと思う。私自身も図書館の利用者として、リクエストや予約した資料をはじめ利用をととても楽しんでいる。

読書離れというものについては、調査結果をみてショックを受けた。全国的な本離れという説明があったが、全国の中にはそうでない地域もあると思うので、そのような地域への視察などを行い、参考として取り入れるというのはどうだろうか。少しでもやれることからやってみる、ということも重要と思う。

また、家庭教育に対する危惧もあり、保護者へのアプローチも検討する必要があると思う。アンケート結果から、子どもには本を読んで欲しいと思っている保護者が多い、ということが読み取れるものの、子どもがテレビやタブレット端末の画面を見続けていても何か働きかけや声掛けなどは行わない、というように、保護者の行動と考えに矛盾を感じる。

自分は聾学校での勤務経験があるが、聾学校の教育現場では、日本語の習得には読書が非常に重要であった。ある保護者の話であるが、子どもを書店に連れていき、子どもが自由に選んだ本1冊と、保護者が読んでほしい本1冊を一緒に買うというのを繰り返した結果、子どもが本好きになったという事例も耳にしている。保護者へのアプローチの仕方について一緒に考えていきたいと思っている。

(委員)

図書館リサイクル本バザーの運営に携わっているなかで感じたことをお伝えしたい。常連として何度も来てくれる人や偶然来た人の中には何十冊と買ってくれる人もいて、そういった光景を目に

すると非常にやりがいを感じる、と運営に携わっている人みんなが言っている。また、本を買っていく人の中から、絶版となった本と巡り合えて本当にうれしい、という意見をもらうこともあるので、図書館の所蔵資料には価値のあるものがたくさんあるというのを感じている。

蔵書や書架の適正な管理が進んできたこともあると思うが、以前と比較すると図書館から提供される資料(除籍資料)が少なくなってきたように感じる。

(事務局)

りぶらサポータークラブからは図書館事業へ大きな協力をいただいている。図書館リサイクル本バザーの売上げを活用して、布絵本キットや大活字本などを寄贈いただいております、大変ありがたく感じている。除籍資料の数量についてはどうしても変動があるため、その点は理解いただきたい。りぶらサポータークラブとは引き続き良好な協力関係で事業を続けていきたいと考えているので、意見があれば伝えてほしい。

(委員)

30分図書館ちよこっとイベントについてであるが、イベント内容についてはホームページに掲載しているか。

(事務局)

お知らせとして記事を掲載している。

(委員)

そのイベントの中で図書館ホームページの活用講座などを行ったか。

(事務局)

行っていない。

(委員)

高齢者のなかにはホームページの利用の仕方がわからないかたもいると思うので、検索の仕方やマイページの利用などを周知する講座を行うとよいと思う。

(委員)

次年度の事業として何か新規で実施するものはあるか。

(事務局)

情報を出せる時期ではないので、現在は何も申し上げられない。

(委員)

岡崎市立中央図書館等資料貸出返却業務の指名型プロポーザル方式の結果が掲載されているが、令和7年度も株式会社図書館流通センターと契約するのか。

(事務局)

実施要領にあるとおり、良好な業務履行が確認された場合は継続することになる。

(委員)

貸出返却カウンターにいるのは委託業者のスタッフか。また、会計年度任用職員はどちらにいますのか。

(事務局)

貸出返却カウンターは委託業者のスタッフである。会計年度任用職員はレファレンスカウンターをはじめ子ども図書室のスタッフなどとしても勤務している。

(委員)

貸出返却については委託業者がすべて行っていると理解した。スタッフの表情が若干暗く感じるときがあるので、もう少し明るいとともに良いように思う。また、相互貸借やリクエストの受付は市と委託業者のどちらが対応しているのか。

(事務局)

相互貸借の受付はレファレンスカウンターで会計年度任用職員が対応しており、リクエストの受付は委託業者が対応している。

(事務局)

委員の意見にもあった図書館ホームページの使いかた講座については、市職員が行う出前講座のメニューに類似のものがあるが、開催実績が乏しいのが実情である。開催に結び付くように働きかけを行っていききたい。

また、利用者のホームページへのアクセス解析を行っているが、新刊情報をはじめ OPAC へのアクセスが非常に多いことが分かっている。イベント情報をはじめ当館の取り組みに興味を持ってもらうような上手な情報提供の仕方を検討していききたいので、協議会の委員のかたからもぜひ助言をいただきたい。

(委員)

相互貸借で取り寄せた資料を市民センター図書室で受け取ることができると非常に利便性が高いと思う。公共交通機関で普段移動している利用者もおり、本の値段と交通費が変わらないという場合もあるだろう。

(事務局)

相互貸借で取り寄せた資料については中央図書館のみでの貸出返却となる。他の図書館の所蔵資料のため、利用ルールをきちんと説明したいこと、現在の物流便のスケジュールでは受取・返却場所次第で1～2週間期間を要する場合があることが理由である。

(委員)

額田図書館も行っていないのか。

(事務局)

行っていない。

(委員)

図書館サービスの地域格差が非常に大きいように感じる。相互貸借は非常に重要なサービスである。額田図書館しか利用できない人もおり、そういったかたは相互貸借サービスの対象外となってしまう。何とか工夫をして対応方法を考えてほしい。

(委員)

図書館ホームページや図書館だよりに予約が多い資料が表示されているが、これはどういった目的で掲載しているのか。百件以上予約が続いており、今から予約を入れてもいつ手元にくるのか見当もつかないものも多くある。

(事務局)

推測ではあるが、人気の本を知りたいという意見もあるため、表示しているのではないだろうか。

(委員)

寄贈のお願いなどを合わせて掲載するのもよいと思う。また、もともとが週刊誌や月刊誌などで連載されていたというケースもあるので、そちらも併せて紹介してみるのも面白いと思う。

また、そういった本の所蔵数を増やすことも検討してほしい。

(事務局)

いわゆるベストセラー本の副本、というのは様々な図書館でも問題になっている。副本数の上限も定めており、利用者に不便をかけて申し訳なく思うが、お待ちいただくほかない。

(会長)

それではこれで議事及び報告事項は終了とする。